

レディースNOW

商工女性は今

茨城県商工会女性部連合会

水戸市桜川2丁目2番35号

電話 (029) 224-2635

FAX (029) 226-0955

発行者 桜井 姚

女性部員数 5,972人

レディースいきいき物産展

見て・食べて・一緒に楽しもう～
茨城県商工会女性部連合会 後援：茨城県・茨城県商工会連合会



大勢の人出で賑わう物産展会場



県商工会女性部連合会（桜井姚会長）は九月二十七日、水戸市の県民文化センター・大ホールで「茨城県レディースいきいき物産展」を開催した。県内各地の特産品を一堂に集めた会場には、来場者と自慢の逸品をPRする出展者らで終始活気にあふれていた。

同物産展は、今回が二回目。女性部組織を活用し、各地域の特色を生かした産品を一堂に集め、自らのビジネスや地域産品等をPRするとともに、やる気のある店のビジネスパートナー探し場として活用することが目的。

◇

会場を回る橋本昌・県知事



茨城レディース
いきいき物産展

県内各地の産品一堂に 来場者4000人にPR



下妻市商工会女性部/0296-43-3412



伊奈町商工会女性部/0297-58-1700



つくば市商工会女性部/029-839-2111



内原町商工会女性部/029-259-2803



北茨城市商工会女性部/0293-42-2511



水海道市商工会女性部/0297-22-2121



龍ヶ崎商工会女性部/0297-62-1444



つくば市筑波商工会女性部/029-867-0343



鹿嶋市大野商工会女性部/0299-69-0125



荒巻製茶工場/0294-82-2005



岩井市商工会女性部/0297-35-3317



関東農産(株)/029-885-2050



玉里村商工会女性部/0299-58-1021



手焼せんべい にしくら/0299-62-2286



和泉屋本店/0299-62-2062



真壁町商工会女性部/0296-55-4111



コスメチックティアラ/029-885-8115



八郷町商工会女性部/0299-43-0247



和泉屋本店/0299-62-2062



有(日立)ドール/0293-32-5500



石下町商工会女性部/0297-42-3155



クリームハウス/0297-68-3328



千代田町商工会女性部/0299-59-3755



大洋村商工会女性部/0291-39-2065



茨城町商工会女性部/029-292-5979



見ごとと優秀賞に輝いた細谷さん

関東ブロック商工会
女性部交流研修会・主
張発表大会が、七月十
三、十四日の両日、埼
玉県さいたま市で開催
され、一都十県の女性
部員三百五十人が参加
した。

細谷さん(真壁町)が優秀賞

関東大会ではつらつと発表

主大会は、各都県から選出された十一人が、日頃の活動の中から得た成果や意見を発表し、会場は熱気と興奮に包まれた。都県を代表する実力者ぞろいの中、本県からは真壁町の細谷静枝さんが出場。「女性部活動と地域振興・まちづくり」をテーマに、人形浄瑠璃とひなまつり「真壁のひな祭り」を見に来ていただいたお客様への甘酒サービス

や人形浄瑠璃と女性部が出会うまでの発表が参加者に感銘を与え、見ごと優秀賞(第二位)に輝いた。引き続き研修会が行われ、発明達人塾・アイデアクリニッック代表の下村正氏が、「経営に活かすアイデア発想法」をテーマに講演した。

地域の活性化を夢見る ～人形浄瑠璃とひなまつり～

真壁町商工会女性部 部長 細谷 静枝

私の住んでいる真壁町は、茨城県の西部、筑波山と加波山の山懷に包まれた自然豊かな町です。人口は、2万人、加波山の恵みを受けて石材業が盛んです。35年前、私がこの町に嫁いで来た頃、自宅周辺は「真壁町銀座通り」と呼ばれ、大変な賑わいでした。しかしながら、時代と共に、近隣市町村の活性化と、筑波鉄道の廃止、自家用車の普及に押され、地元商店街から若者の姿が消えて行き、気が付けば、シャッター通りになっておりました。さらに、追い打ちをかけるように、地場産業であった石材業も、外国からの輸入製品に押され、低迷の道をたどりました。

このような時に、女性部の部長に就任し、微力ではあれ、この町の活性化に力を注ぎたいという熱い思いから、仕事の合間をぬって、三燐学園に入学していろいろな町おこしの勉強をさせて頂きました。その中で細島先生は、「何もやらないで町は起きるわけではない。何でもいから一つチャレンジしなさい」と言う言葉に私はある町内の七夕祭りに、女性部として始めて参加しました。

七夕祭りでは、戸惑いながらも、アイデアを重ねた末の七夕飾りや、女性ならではの手作りコロッケと、女性部が一丸となり参加したところ、地域の方々より高い評価を受け、これが地域活性化の第一歩と自負しております。また、今では「夜祭り」と名を変えて、町全体のお祭りとなり、より一層の賑わいを見せております。

その弾みを受けて、女性部の力を要請する声が増え、その中の一つに「真壁のひな祭り」がありました。真壁町は江戸時代、商人によって造られたという蔵や門が140棟ほど残っており、そのうちの77棟が国の有形文化財に登録されております。

今回もおもてなしと出会いを大切にしたい気持ちを込めて、2月2日より3月3日までの一ヶ月間、100軒ほどの家に江戸時代から平成までのおひなさまを飾り、見に来ていただいたお客様を、もてなそうと言うことで、まだ、2月という寒い時期なので、女性部が甘酒の無料サービスをする事となりました。真壁は酒蔵が3軒ほどあります。酒蔵から酒がすすりわけていただきました。酒かすを前日水につけて、当日に名水で割りながらミキサーにかけます。それをお鍋に入れて砂糖を加え沸騰しないように沸かしします。するとまろやかな甘酒が出来上がります。そして、笑顔で「こんにちわ」と、声を掛けながら、ひとりひとりに甘酒を渡し、接待します。すると、お客様の顔がにこやかになり、「去年も甘酒ごちそうになりました。」「おいしい甘酒ね。」「体が暖まるわ。」「優しい町ね。」「なんかこの町に来て、おひなさまを見ると、心が癒されるのよね。」「と、お客様との会話が弾みます。

また、町の中では、80歳を過ぎたおばあちゃんが「私のおひなさまよ。」と、幼い頃を思い出し、お茶を入れて会話が弾んでおりました。

女性部の甘酒サービスは午前9時より午後3時までです。

昨年は、数名だったお手伝いの部員も、今年は延べ120名になり、部員それぞれがまちづくりに関心を持ち、主体的に参加する意識が広がってきた事を実感しました。

又、立ち尽くした疲れも、お客様のにこやかな顔を見ると、すっかり飛んでしまいました。

そこには、出会い、触れ合う事の喜びと充実感がありました。

人口2万人の町に6万人のお客様がおひなさまを見に来てくださいました。

その事によって、食事やおみやげで一人千円と見ても、六千万円は町に潤ったかと思えます。

近隣市町村からも真壁のひなまつりのおかげで、働かせて頂き有難う、との御礼の言葉がありました。

あ！、これが波及効果なんだと実感いたしました。

時を同じくして、地域活性化の一環として復活に向け頑張っていた人形浄瑠璃も大盛況を迎えました。大正8年を最後に途絶えていた人形浄瑠璃「真壁白井座」を85年ぶりに復活させようと、徳島県より、人形浄瑠璃「寄井座」を立ち上げていた一座の皆さんを呼んで、公演していただく際の接待。受付を女性部がお手伝いする事になりました。この時が、私達と人形浄瑠璃との初めての出会いでした。これをきっかけに女性部の方々も入座し、初めての題目が「傾城阿波の鳴門巡礼歌の段」でした。「父様の名は阿波の十郎衛、かか様の名はお弓と申します。」と、巡礼をしながら幼い子供が父母を探す場面です。

そして、初めて目にする人形、歌に戸惑いを感じながらも、次第に人形たちの心情が感じられるようになり、涙を流しながらの練習は厳しくも楽しいひと時となっていきました。

人形は、頭を持つ人、手を持つ人、足を持つ人、3人の心が一つになって始めて一体の動きになります。また、歌をうたう太夫さん、三味線を弾く人としてすべてが揃わないと演じる事ができません。でも、復活と言う、一つの目的に向かって集まった仲間との結束力も深まり、ついにNHKの番組に生出演をする事ができました。そして、白井座を立ち上げてから2年間の練習をへて、ついに行った旗揚げ公演では、追加公演を行うほど盛り上がりしました。

これも、接待、受付、舞台作り、という裏方参加を通し、来訪者をおもてなしするという心が成功に結びついたのだと思います。

「ひなまつり」と「人形浄瑠璃」二体が一体となり、真壁の町に「いにしえの姿をとどめた」まちづくりに力を注ぎたいと思います。

蔵の町、ひなまつり、人形浄瑠璃、と活力あるまちづくりとして、総務大臣賞を頂きました。

電車もない、国道もないこの町に集まって来た、たくさんの人達の声をきいて、何も変わらないことがこの町の良さだったという事を気づかされました。物も情報もあふれかえるこの時代に、「何もない場所」で、ホッとしたい時もある、だったらこの町は、都市化という方向性の活性化ではなく、住む人、訪れた人の心が生き生きするという意味の活性化を目指していこう。そんな、癒しのある町を夢見て、これからまちづくりに励んでいこうと思います。

平成16年度 茨城県商工会女性部連合会通常



新年度の抱負を語る桜井会長

県商工会女性部連合会
は五月二十
日、水戸市に
おいて、平成
十六年度通常
総会を開催
し、八十商工
会女性部長
(委任状含む)
が出席した。
開会にあ
たり桜井会長
は、「昨年、
創立二十五周
年を迎えたが、商工会
女性部は経済活動をし
ている女性の中では最
大の団体であるとい
うことを再認識してほ
しい。今後も、更に社
会から認められる団体
として活動していき
たい」とあいさつ。来賓
祝辞として、矢口一
美・県商工労働部長、
沼尻博・県商工会連合
会長が、女性部活動の
功績を讃え「地域商工
業の振興発展と、住み

良い街づくりに邁進さ
れるよう心から期待し
ています」と述べた。
続いて、新治
村商工会女性部
の中山八重子部
長を議長に、平
成十五年度事業
報告及び平成十
六年度事業計画
など四議案を審
議し、原案通り
満場一致で可決
した。なお、役
員の補充選任で

は、友部町商工会女性
部の古賀節子部長が選
任された。
続いて、平成十五年
度の部員増強運動優良
女性部の表彰式を行
い、次の女性部が表彰
を受けた。潮来市牛
堀・協和町・岩瀬町・
潮来市潮来・神栖町の
各女性部。



部員増強運動優良表彰受賞者の皆さん

女性部主張発表大会

山野井さん(伊奈町)に栄冠

●●● 6人がいさいきと発表 ●●●



あいさつをする桜井会長

県内各地から六人の代表が「女性部活動に参画して」等のテーマを審査の結果、最優秀賞(一位)に輝いたのは「女性部活動と地域振興・まちづくり」をテーマに発表した伊奈町の山野井絵里さん、優秀賞(二位)には真壁町の細谷静枝さん、優良賞(三位)には東海村の佐藤みさ子さん

県商工会連合会と県商工会女性部連合会は、六月十日「第三回茨城県商工会女性部主張発表大会」をつくば国際会議場で開催し、県内八十商工会女性部員

六百五十人が参加した。始めに、桜井会長は「女性部員が知恵を絞って、地域の消費者から認められるような事業を今後も発表してほしい」とあいさつ。続いて、土田惣一・県商工労働部長が「女性の柔軟な発想と、未来に希望が持てる主張発表を期待します」と激励。

審査の結果、最優秀賞(一位)に輝いたのは「女性部活動と地域振興・まちづくり」をテーマに発表した伊奈町の山野井絵里さん、優秀賞(二位)には真壁町の細谷静枝さん、優良賞(三位)には東海村の佐藤みさ子さん



発表者の皆さん(最優秀賞は左から3人目の山野井さん)



豊富な品揃えと陳列の仕方に、奥様の三重子さんの仕事に対する意気込みと洗練されたセンスの程が伺える。そして、生

水郡線瓜連駅近く「アントステラ」の輸入雑貨を始め、キッチン小物、和雑貨など、暮らしが楽しくなる商品が所狭しと並んでいる。ログハウスがある。「木のぬくもりとやさしさ」をテーマにした「ログフォート本館」である。木の香が漂う店内には、季節により、輸入カレンダーやクリスマスグッズがかわいらしいラッピング用品と共に賑わいを添える。ツールペイントやモラの教室には二階部分が開放され、近隣町村からのリピーターも多い。

天目悦夫社長のコレクションのスピーカーから流れる心地よいジャズの軽やかなリズムが、店内の雰囲気を作り立てさせている。その本館東側に昨年春、木工教室とオーダー家具の店「ログフォート木工館」がオープンした。家の間取りや雰囲気に合わせた手作りの家具が人気で、素材から吟味して製作してもらえらる。また、「基礎から学べる木工教室」は刃研ぎから始める本格的なもの。「マイ道具」一式を抱えた女性の参加が増えており、今年は教室数を増やして開講している。本業の生天目製材

所では「光と風の遊ぶ家」をコンセプトに、木のぬくもりと家族の安全を第一に考え、明るく風通しのよい家創りを提案している。長年の製材所経営で培われた素材選びから始まる本物志向は社長のこだわりでもあり、その信念から生まれる、木をふんだんに使った「自然素材の家」や地震・天災に強い「ダイライト工法の家」が注目されている。

あなたも、手作りのやさしさに触れたくなつたとき、「ログフォート」に立ち寄ってみてはいかがですか。

(宇佐見 恵子 記)

「木のぬくもりとやさしさ」に触れて



WOOD WORK SPACE
LOG FORT
〒319-2102 那珂郡瓜連町瓜連796
TEL029-296-3800
http://www.logfort.jp

花屋さんでリフレッシュ



フィオーレ

〒300-4231 つくば市北条5123
TEL029-867-1726

お店のモットーは、来店されたお客様の大切な時間をムダなくゆつくりと寛いでお待ちいただけること、お年寄りやお子様にも「あそこのお花屋さんに行

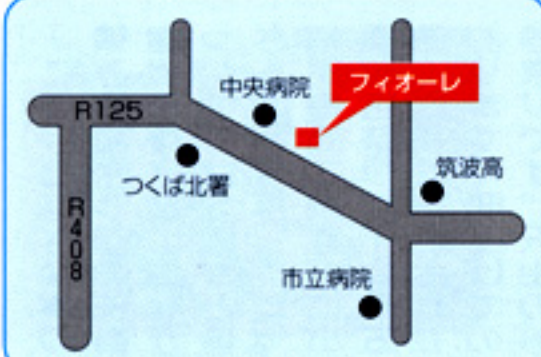
務 退任後に開業をしたわけですが、永い間、夜遅くまでの会社勤務であったため、地元の人達との人間関係がほとんどありませんでした。退任後は、地域の人のふれあいを大事にしたいと考えていました。特に豆腐屋をというのではなかったのですが、すばらしい井戸水が湧いていることや豆腐店が閉店している現状を知り、妻と二人でつづきたくも心のこもった豆腐店を開業しようと思いついたわけです。

古く歴史と個性豊かな芸術の街「笠間」。この美しく情緒あふれる街のなか佐白山のふもとに静かにたたずむ「豆腐茶屋 佐白山のとうふ屋」さんは、市内「笠間稲荷」から約一キロのところ位置しています。(地図参照)

今回取材させていただいた店主の河原井一さんに創業のきっかけを伺いました。永年、自動車販売会社に勤

築波山と北条米で知られる街にある「フィオーレ」(仏語花の意)さんにお伺いしました。

広いスペースにレモンイエローのモダンな建物、一見レストラン風にも見えました。笑顔の爽やかな奥様とインコが迎えてくれる店内は切花、鉢花、観



薬植物が回って見られるようにゆつたりと配置されています。その他に葬祭用のリース、花環など取り扱う品目は多いということですが、仕入、配達社長は、店長は奥様と責任分担をされているそうです。

創業から三十余年、始めはお母様が花を栽培し、旧道にあるお店で販売していた、息子さんの現社長が一二五号線沿いにあった作業場を新店舗にしたそうです。

「こつ」と言ってもらえることで、そのために店の空間づくりに気を配っているとのことでした。

所々にテーブルと椅子が置かれ、可愛らしく花が活けられ、壁には花の絵が飾られています。高い天井にはゆつくりとファンが廻って爽やかな音楽が聞こえています。深呼吸し

ります、特に女性は」と話されていました。丁度お客様が居られ、贈答用に鉢の育て方、手入れの仕方等カードに書かれていて喜ばれたとお聞きし、「お客様との心からのつながりを常に考えている」との言葉にも頷けました。また、「お客様の花の活かし方、発想は凄いです。勉強にな

(初沢 正子 記)

あんな店 こんな店

“小さな豆腐屋”から“予約の必要な豆腐屋”へ



豆腐茶屋
佐白山のとうふ屋
〒309-1611 笠間市笠間2810
TEL0296-72-3072

豆腐屋の歴史は、近頃の豆腐店に行き、見よう見真似で習得しました。建設会社に勤務していた息子の知り合いの豆腐屋さんも、店主の豆腐に対する想いに感銘し、心温まる指導も頂きました。

最初は、一日二回の製造で出来る百四十丁の豆腐を販売する程度の店を考えていました。平成十五年十

二月から三月まで、試つくりをし、近隣の人達に豆腐二丁とおからを約三〇〇〇人に無料で配布しました。そのうちに、今度出来た豆腐屋さんはおいしいよ!と口コミで広がり「うまい」という噂が市内に響き渡りました。三月三日のオープンに手作りチラシ五〇〇枚を新聞折込みしただけでその他の広告宣伝費はありません。さらに四月二十四日にテレビ朝日「人生の楽園」で放映され、県内はもとより関東・東北からもお客様が訪れるようになりました。

お蔭様で豆腐百四十丁を販売する「小さな豆腐屋」の目標から今では、予約の必要な豆腐屋としてお客様に評判になりました。建設会社に勤務していた長男も忙しい両親の様子をみて体を心配し手伝うことになり、家族ぐるみで仕事を切り盛

りしています。取材中いろいろご馳走になりました。メニューに紹介されている「豆腐ソフトクリーム」は、後味がサラッとした食感で甘さで、大人にも大受けです。が、なんとも煮物にするには勿体無い、山芋をつなぎにして、とにかくなめらか!銀杏まで入っています。笠間へ行ったなら是非、お立ち寄りください。

(休日・毎週月曜日および第2火曜日)



(小松崎 友江 記)

合併を期に 新たなスタート 十王町



日本一の国民宿舎「鶴の岬」のある町十王、このイメージが強い、山と海に囲まれた十王町商工会女性部は昭和五十四年四月に設立され部員総数四十二人で現在に至っております。

この十一月より、日立市との合併を前に女性部も「商工会」としての存続を望み、組織・事業の取り組みなど、商工会との活動の中に連絡を密に各種事業計画を立てて実施しております。

昨年十一月には十王町として最後の「産業祭」となるため、青年部、女性部共同事業として、「十王鍋」と題して九品目の地場野菜・常陸牛の肉すべて地場産物を使用したため大変好評を博しました。

また、恒例の「十王まつり」では、「流しおどり」に参加し、模擬店に「かき氷」を出店するなど地域事業にも積極的に参加しております。

こうした事業により女性部の認識が高められ、日立市との合併後も十王商工会女性部として、新たなスタートを切り地域に貢献できるように努力して参りたいと思います。

(工藤 道 記)

もっと「キレイ」を欲張って 旭 村



私たち旭村商工会女性部は、三十五人という少ない部員です。親睦を深めることを第一に考え活動しています。

今年、多くの部員に参加してもらったように考え、アジサイが見頃となった六月に鎌倉への日帰り視察研修を実施しました。

多く見学し、シヨールームの行楽あるフロアでは鎌倉工場のモノ作り、口紅の歴史、環境への取り組みを見ることができました。

化粧品の見学、ステイジで行われるイベントの販売をします。ステイジで行われるイベントの販売をします。

旭村商工会女性部は、三十五人という少ない部員です。親睦を深めることを第一に考え活動しています。

今年、多くの部員に参加してもらったように考え、アジサイが見頃となった六月に鎌倉への日帰り視察研修を実施しました。

多く見学し、シヨールームの行楽あるフロアでは鎌倉工場のモノ作り、口紅の歴史、環境への取り組みを見ることができました。

化粧品の見学、ステイジで行われるイベントの販売をします。ステイジで行われるイベントの販売をします。

(細谷 紀美恵 記)

フラダンス教室で リフレッシュ！ 岩間町



さくらとスズランの町・岩間は、愛宕山のふもとにたたずむ静かな町です。近年は、常磐線・岩間駅・や常磐自動車道・岩間ICなど交通アクセスが良くなり、外資系企業の「ポートピア岩間」がオープンし、県内外の来訪者で賑わいを見せています。

岩間町商工会女性部は、六十九人の部員を有し、「商工まつり」や「先進地視察研修」など積極的な事業を展開しています。本年度は、新事業として「フラダンス教室」を開催することになりました。

商工会女性部に属する部員の方々は、妻として、母として、さらに働く女性として事業経営に携わっておられる方々です。いつも元気で、素敵な笑顔をお客様に提供しなければなりません。そのため「健康が一番」ということで、日頃の業務におけるストレス解消と美容と健康を兼ね、フラダンスを学ぶことになりました。

フラダンスは、一見スローテンポで、あまり運動にならないように見えますが、十分すると汗が出るほどの運動量です。現在、みんなで楽しくリフレッシュしているところですが、近々、老人ホーム等の慰問なども検討しているところです。

私たち商工会女性部 (小松崎 友江 記)

人に役立つ小さな事

協和町

協和町商工会女性部は、昭和五十五年五十二人の部員で設立され二十四年目を迎えることが出来ました。昨今少子高齢化が進む中、当女性部に出る来る事は、地域のため糊付けしたシーツを贈るの、ないようなに、作られたり、作業室では山のような洗濯物をたたんだり、衣類の縫い物など、和気あいあいと「コミニケーション」をとるながら手先は休まずに送った時には額に汗がにじんでいました。熱いお茶をこ馳走になりながら「人と人のつながり、思いやり、温もり」を改めて痛感させられました。また、女性部の様々な事業の一環としてタイとラオスの恵まれない人達に衣類や毛布・タオルなどを各家庭で不用になったものを現地の人達に送りました。部員一丸となって快く協力して下さいました。今秋もまた実施する予定です。

(河添 節 記)



青大豆・黒大豆でまちおこし 伊奈町



私達の伊奈町は県南部に位置し首都圏にも約四十五キロメートルの至近にあり、これまで鉄道がなく不便を余儀なされてきました。

その念願が叶って平成十七年の秋につくばエクスプレスが開通することになりました。これは当町のセールスポイントである溢れ出る自然と米をはじめとした農産物を都心に向けてアピールできる絶好の機会になります。

町では稲作の転作物として最も期待しているのが青大豆と黒大豆であり、これを特産品化する大きな課題となっています。私達商工会女性部は食と女性という特性を生かして女性部活動の一環としてつくば市を中心とした五商工会女性部による若手後継者等育成事業の支援をいただきながら試行錯誤を重ね町の特産品開発に一役買っています。掲載写真は会員企業の協力を得て青大豆豆腐の下準備をしているところですが豆腐のほかにも味噌、豆乳やゼリー、炊き込み御飯など特産品の掘り起こしに取り組んでいます。健康食品として注目を集めている黒大豆や青大豆をいかに発展させ特産品化するかが今後のテーマでありこれからますます熱く燃えまします。

(高野 幸江 記)

新しい街づくりに 燃える 守谷市



来九月に「つくばエクスプレス」の開通を控え、市内の様子も一変した守谷市の女性部を訪問しました。県内でも東京に一番近い駅として注目を浴びています。女性部結成以来二十八年、部員一〇人の活気溢れる皆様です。

女性部長と商工会副会長も兼任されている部長さんは女性部活動にとどまらず地域のリーダーとしても活躍されており、つくばエクスプレスの開通に伴うまちづくりの勉強会や工事現場(地下トンネル)の見学視察等も定期的に開催し、新しいまちづくりに熱心に取り組んでおられます。

毎年恒例の守谷市商工会と観光協会主催のあやめまつりには、とうもろこしや煮るめ、八千代町女性部との交流でキムチの仕入れ販売。また、老人ホームの夏祭りのお手伝いとしてバザー。商工祭での売店、年間の反省会を兼ねての泊研修旅行、新年会。一年間、地域との交流を混じえて大変活躍されておりました。

(殿岡 容子 記)

